

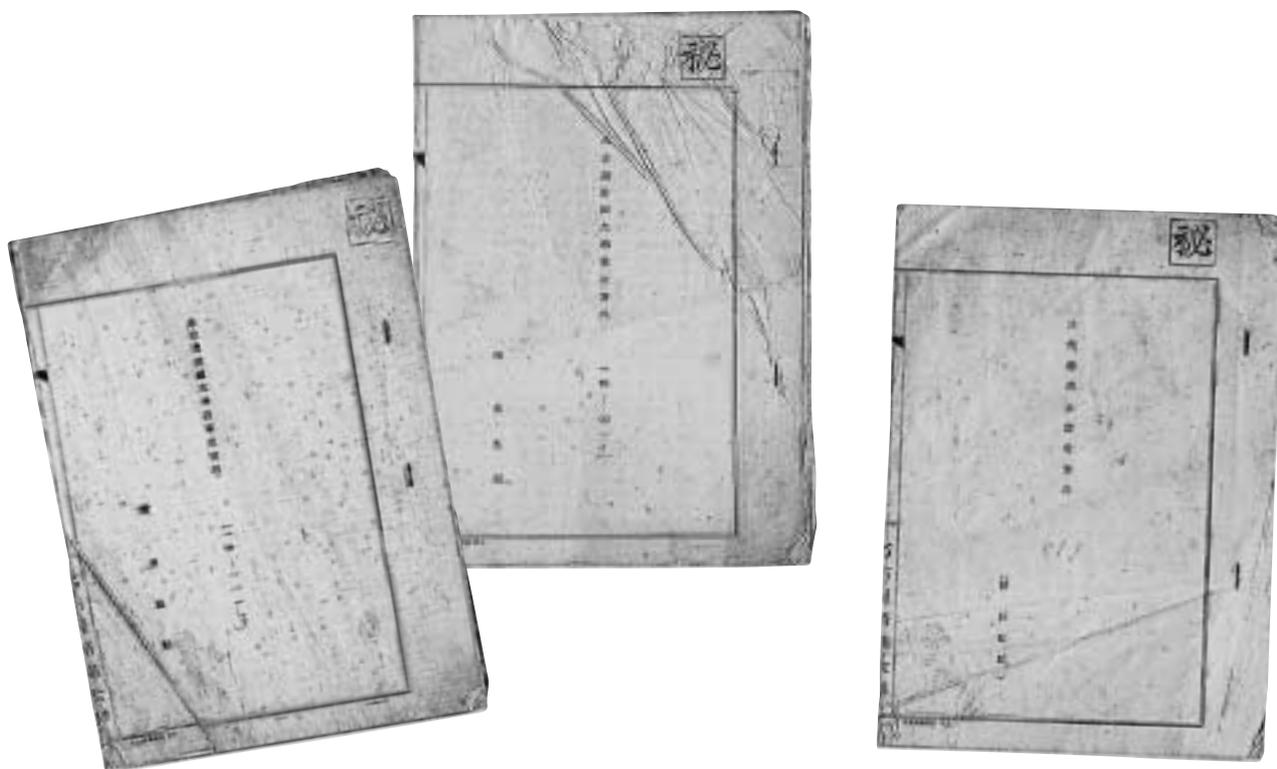
名古屋大学 大学史資料室ニュース

<http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp/>

第 1 2 号

目次

| | |
|---------------------------------------|---|
| 大学史資料室と大学アーカイヴズ | 2 |
| 渋澤元治名古屋大学初代総長と 渋澤元治資料 - 史料遍歴(6) | 3 |
| 博物館第4回特別展「名帝大けふ誕生 - 初代総長渋澤元治とその時代」 | 5 |
| 受贈図書一覧 | 6 |
| 資料室日誌(抄) | 7 |



大学史資料室と 大学アーカイブズ

名古屋大学副総長 伊藤 正之



時に、副総長室の戸棚にある「写真集 名古屋大学の歴史 1871～1991」を広げて、そこにある写真と自分の学生時代や教官になりたての頃を重ね合わせてみることもある。そんな時、合わせて名古屋大学の源流、名古屋帝国大学や旧制高等教育諸学校等の写真を見ては、これは史料価値が高いだろうなとか、よくこれだけ収集できたものだなどと感心している。もとより、大学史資料室の前身である名古屋大学史編集室が「名古屋大学五十年史 部局史一・二」、「名古屋大学五十年史 通史一・二」とともに英知を結集して編集・刊行したものであり、本学の法人化を前に、これら3つの資料は利用する頻度が高まるに違いないと思う。本学の五十年史を編集・刊行するための組織を発展的に解消して、学内措置で共同教育研究施設として大学史資料室を設置し、調査・研究機能と教育機能を充実させるとともに、所蔵する資料の公開を通じた学内外に対するサービス活動を行なって、高い評価を得ている。

そのひとつである全学共通教育における総合科目「日本の大学 - 近代日本と名古屋大学」の開講は、極めて重要な意味を持つものである。折りしも、名古屋大学に全学の同窓会が立ち上がろうとしており、名古屋大学のアイデンティティを問う議論が出始めているからである。本学の学生が卒業後名古屋大学のことについて歴史的な枠組み、教育研究の枠組み等での程度の知識を持っているか、一度調査をしてみる必要があるのではないかと思う。恐らく自分の所属した学部、学科、研究室のことを除けば、名古屋大学の教育研究についての知識は殆ど持ち合わせていないといったところであろう。そのような中で、「日本の大学 - 近代日本と名古屋大学」の受講生には、「名古屋大学とは」を考えさせていることだけは確かである。この総合科目をきっかけにして、本学の教育研究の過去と現在やそれらの占める位置付けについて、各方面から教授する授業科目を「全学教育」の中に設定できないものかと思う。それには、これまで以上に、本学の教育研究に関する資料を広範囲に収集し、整理しておくことが必要である。

また、「名大史ブックレット」シリーズの刊行も興味を引いている。項目毎に、豊富な資料を使って、本学の歩んだ道を肩のこらない読み物ふうにとまとめており、ユニークな刊行物である。私は、体育会の行事に出席して、学生諸君に話をする機会がよくある。そんな時、同シリーズで高橋

義雄先生がお書きになった「名古屋大学 スポーツの歩み」2冊を大変重宝している。先輩の皆さんがどのように本学でスポーツに親しみ、励んだかは、現在の体育会の学生諸君に対して訴えるものが大きいことを学んだのである。これは、1例であって一般化することは危険ではあるが、過去の学生生活の様子は、現在の学生の学生生活に良い影響を与える場合も考えられ、学生生活に関する記録等についてもきちんと整理し、管理・保存することが大切である。

各大学において情報公開が重要な課題になっている今日、保存資料の市民への公開サービスを行なっている大学史資料室には、情報公開のあり方について一定の見解が求められることは当然であり、そのことは本学が資料を開示するに当たって、大きなヒントを与えることになるに違いないと思う。

このように大学史資料室の活動分野は、多岐にわたり、共同教育研究施設として十分な役割を果たしている。しかし、その将来を今のままで良いと考えるには、極めて難しい側面があり、その将来構想を全学的に考えなければならぬ時期である。欧米の大学を訪ねた方々で、図書館や博物館とともに、アーカイブズに立ち寄った方がおられると思う。私はどうか言えば、アーカイブズという名前を聞いたことがあるものの、それがどんな機能を持つところがこれまで全く関心を持たずに来た。ここに来て、大学史資料室を中心に、本学に「名古屋大学ア - カイブズ(仮称)」が必要であるとの提案があり、現在全学的な議論に委ねられている。

大学アーカイブズは、主として文書資料の収集・管理・活用を通じて、その大学の存在や活動を歴史的な視座から実証する様々な活動を支援する組織と位置付けられており、法人化後の大学を睨んだ時、その必要性を疑う人はいないと思うが、如何であろうか。ただ、緊急度、必要度の順位、組織形態については、別の議論が必要であることは言うまでもなからう。

史林遍歴（その6）

渋澤元治名古屋大学初代総長と 渋澤元治資料

このたび名古屋大学初代総長渋澤元治氏の資料が当資料室に寄贈されました。そこでこの資料の概要とともに、あわせて初代渋澤総長の足跡について簡単に紹介していきたいと思います。

初代総長渋澤元治氏

初代総長渋澤元治氏は、1876(明治9)年現在の埼玉県深谷市に生まれました。経済人として著名な渋澤榮一氏の甥にあたります。渋澤本家の長男であった榮一氏が東京に出たため、妹の貞さん(元治氏の母)に養子を貰い、生家は維持されました。つまり渋澤本家を元治氏が継いだことになります。

旧制第一高等学校から東京帝国大学工科大学電気工学科にすすみ、卒業後約1年間兵役につき、その後約4年間欧米留学を経験した後、1906(明治39)年から逓信省に勤務、水力電気事業の普及や鉄道電化などの初期電気事業行政を指導、また国産第1号の回転変流機の製作など電気産業技術の発展に寄与しました。1911(明治44)年工学博士を取得、1914(大正3)年から電気試験所に移り、1917(大正6)年から母校東京帝国大学電気工学科の講師を兼任、兼任教授を経て、1923(大正11)年からは専任教授となりました。東京大学ほかで工学教育に尽力するとともに、電気学会会長・日本学士院会員・米国電気学会名誉会員に推されるなど、諸学術活動にも貢献しました。工学部長も3年間務め、1937(昭和12)年定年退職しました。

名古屋大学草創期と渋澤学長

このような多大な実績をもって、1939(昭和14)年、名古屋大学(当時は名古屋帝国大学)初代総長に就きました。創立当時の名古屋大学は、戦時下という困難な状況下で大学の早急な整備を行うという大きな課題をかかえていました。たとえば前身校があった医学部と異なり、理工学部は新たに設置されたためそのスタッフや建物の整備が緊急の課題でした。渋澤総長は新キャンパス取得や研究等に必要な資金の寄付依頼や教員招聘のために角方面に奔走しました。さらに取得した東山新キャンパスの整備計画の策定・実施のために、内田祥三東大教授や本多静六氏に協力要請を行いました。また医学と理工学をあわせた総合研究を行う航空医学研究所(現環境医学研究所)の設立に努力もしました(1943(昭和18)年に実現)。この地域の科学研究の発展にも寄与し、1941(昭和16)年に組織された「愛知県科学技術振興会」の学術委員長として研究奨励を行うとともに、伊藤

圭介・吉雄常三、水谷豊文など、古く江戸時代のこの地域における医学・科学研究者の功績を紹介し、その名を地域に広めました。

その後戦争が激しくなる中で、大学・学生を守る努力もしました。戦時下下宿生活が困難であった学生のために、1942(昭和17)年に民間アパートを大学附属の学生寮(菁々寮)として大学で借り受け、あわせて豚鍋



渋澤元治初代総長

をつつきながら、学生と相互交流を語る「総長懇談会」をこの寮で開始しました。東山キャンパス内に高射砲をもうけたいという軍の要請を、無線空電研究所を設置したいという理由で拒否、大学が空襲の標的になることを防ぎ、また実験器具等も五月空襲の前に各地へ疎開避難させました。鶴舞キャンパスは空襲でほぼ全焼してしまいましたが、東山キャンパスはこのようなこともあって軽微な空襲被害で済みまし。こうして大学はなんとか敗戦を迎えることができたのですが、その直後、体調を崩し、やむなく総長を退任しました。

退任後は郷里深谷市の生家に戻り、暫くして健康を回復しました。その後、1955(昭和30)年に文化功労賞を受賞、これを記念して、電気保安について顕著な功績があった方を表彰する渋澤賞を設立しました。また自伝『五十年の回顧』や『電界随想』の著書をはじめ、ほかにも電気学会に関する随想など、多数の随筆も書いています。その中には、本居宣長や松尾芭蕉、あるいは総長時代の訓辞で徳川義直・本居宣長にふれられた記述もあり、専門の理系研究だけではなく、文系の歴史についても造詣が深かったことがわかります。そして白寿を迎えられた翌1975(昭和50)年にお亡くなりになりました(享年100歳)。

渋澤元治資料寄贈の経緯

渋澤氏がお亡くなりになった後、ご遺族の方が故人の遺志を受け継がれ、1985(昭和60)年に、深谷市にある生家(写真)の敷地内に、外国人留学生の日本語教育を行う「渋澤国際学園」を開校されました。この学園の中に「渋澤元治記念館」が建設され、ご遺品ほか渋澤氏の関係資料が、ここに大切に展示・保管されていました。

しかし残念なことに、そのご遺族の方もお亡くなりになられ、これらの資料の維持管理をこのまま継続しつづけることが難しくなりました。そのため渋澤元治記念館館長を務められていた東京農工大学高橋雄造教授が、この渋澤資料の受け入れを各方面の関係機関に打診されました。名古屋大学へは、渋澤氏と深くご親交があった工学部榊米一郎

名誉教授や同じく工学部宮地巖名誉教授へ、その旨の打診がありました。両氏はさっそく松尾稔総長にお話をされ、当局で検討された結果、名古屋大学としてこの渋澤資料を受け入れることが合意されました。そして大学から渋澤家ご遺族の方へ資料の寄贈を正式に依頼し、ご検討いただいた結果、幸いに名古屋大学への寄贈ということになりました。

なお、その後学内で意見調整された結果、大学史資料室がこの資料を管理する運びとなりました。このようにして渋澤資料を当室が保存することになりました。この間、ご遺族の伊東和夫氏をはじめ渋澤元治記念館関係者の方々、また松尾総長、高橋教授、榊・宮地両名誉教授、仲介の労をとっていただいた工学部高村秀一教授や名古屋大学事務局の方々にも、多大なお世話になりました。資料室としてここに改めて御礼を申し上げます。

渋澤元治資料について

寄贈された資料は、見積りで約1,500点ありました。そのうち葉書類だけがまだ未整理ですが、それ以外の約1,000点については、整理を完了しました。資料のおもな内容は以下の通りです。

まず個人のご遺品としては、机・椅子・文箱・時計・眼鏡などがあります。名古屋大学を去られた後、深谷市の実家に戻られてご使用されていたものです。また、色紙ほかの「書」も数多くあります。渋澤氏がよく書を書かれたのは有名で、学内でも旧空電研究所（現太陽地球環境研究所）の「補雷役電」の書をはじめ、多くの書を書かれました。

資料の大半は書籍・文書類です。書籍類では、小中学校および一高時代の教科書・参考書・辞書やノート類、就職する前に約1年間軍隊に入隊されたときの軍事演習関係の本やノートなどもあります。そのほか、写真・アルバムも数多く残されていました。渋澤榮一氏に随行した欧米旅行の際に撮影した写真のほか、海外留学の際に集めた絵はがき・写真集もあり、往時の様子を偲ぶことができます。

文書類では、まず草稿類が目につきます。電気学会ほか電気学関係の各種専門雑誌に寄稿された原稿の草稿のほか、ご自身の半生を振り返られた原稿(草稿)も非常に数多く残されています。前述したように渋澤氏は『五十年の回顧』を初め、後年昔年を振り返るさまざまな文章を書かれましたが、これらの元になった草稿と思われる。もちろん最終的に活字になった著書の文章とは全く同じではありませんし、それも著書の中の章節によっては、草稿が一つではなく、同じ章節で複数の草稿が残されている場合もあります。このようにご自身の回顧録関係については、何度も下書きを書き替えられていたことがわかります。この推敲のあとを追えば、昔年回顧に対する氏の見方の変遷をたどることも可能かと思われます。その他にも書状類が数多くあり、

氏の交遊の範囲の広さを示しています。日記も書かれていたことが確認できますが、残念ながら留学中に書かれた一冊があるだけでした。先の「書」やこれら草稿・書状・日記の存在、多数の著作・随筆を書かれていることからみても、渋澤氏がいかに筆まめでいられたかがわかつてと思います。

名古屋大学に関わる資料としては、名古屋大学に関する文書の草稿資料が目につきます。たとえば『名古屋帝国大学沿革史参考資料』があります(表紙写真)。これに類似した資料は『名古屋大学医学部九十年史資料集』(附属図書館医学部分館医学部資料室所蔵)の中にも収められていますが、渋澤資料のものは、この医学部資料とはまた異なるもので、名古屋大学の歴史編纂を知る上で貴重な新資料といえます。総長時代にまとめられた資料と思われるが、創立直後でありながらすでに「大学の歴史」というものに関心を向けられていた渋澤氏の見識が窺えます。

また、名古屋大学が設立された1939(昭和14)年の名古屋大学に関する新聞記事のスクラップブック一冊もあります。おそらく渋澤氏自身が切り抜き、集められたものと思われる。当資料室には当時の事務局が集めたと思われる新聞スクラップがすでに多数ありますが、これには収められて記事が、この渋澤資料のスクラップには多数ありました。これによって草創期の名古屋大学を知る資料がさらに厚みを増しました。

このように、今回渋澤元治記念館から寄贈いただいた資料は、いままでも名古屋大学では保存されていなかった、名古屋大学の歴史に関する貴重な新しい資料が数多くあります。資料室ではこの資料を今後大切に保管し、活用させていただこうと思っております。

なお、寄贈いただきました渋澤元治資料の披露も兼ねて、博物館と共催で、別記の通り特別展「名帝大けふ誕生 - 初代総長渋澤元治とその時代」と、あわせて講演会を行います。ぜひご来館・ご参集くださるよう御願い申し上げます。
(神谷 智)



渋澤元治記念館のあった渋澤元治氏の生家(埼玉県深谷市)

博物館第4回特別展 「名帝大けふ誕生 初代総長渋澤元治とその時代」

名古屋大学が総合大学として整備される出発点となったのは、1939(昭和14)年の名古屋帝国大学(名帝大)創設です。そこから終戦直後までの本学の歴史をたどります。

開催期間

2002年4月8日(月)~8月31日(土) 10時から16時(入館は15時30分まで)
(月・火曜日休館、ただし4月8・9日は開館します)

場所 名古屋大学博物館(名古屋大学東山キャンパス内、旧古川図書館)

〒464-8601 名古屋市中種区不老町 . 052-789-5767

特別展の見どころ

- ・名帝大創設のころ...創設の経緯を、当時の新聞記事と写真で振り返ります。
- ・初代総長渋澤元治の略歴と遺品...渋澤総長の略歴を紹介し、書・自筆原稿・書籍・愛用の品等を展示します。
- ・「緑の学園」構想とキャンパスの移り変わり...名古屋帝国大学創設以来の約60年間に及ぶ、東山キャンパスの歴史と移り変わりを紹介します。
- ・国産実用第1号の電子顕微鏡...戦前に日立製作所で製作され、昭和17年12月本学に設置された「第2回試作 縦型電子超顕微鏡(HU-2型)」の実物です。創設間もない工学部では、これを使って医学部細菌学教室や理学部との共同研究が行われました。当時撮影された電子顕微鏡写真もあわせて展示します。
- ・戦時下の名帝大...研究教育機器の疎開(僻地への避難)・軍事教練・戦災・防空などのありさまを、おもに写真で振り返ります。
- ・ベルトーク(直流整流器)...名古屋大学の前身校のひとつ第八高等学校の数学科教授が発明・改良し、地元メーカーが独占的に製品化しました。展示品は、名帝大創設当初から学生実験などに使用されて来たものです。

特別講演会

第14回 4月19日(金)15時より

「名古屋帝国大学誕生のころ」 加藤鉦治氏(名大教授 大学史資料室長)

第15回 5月10日(金)15時より

「名古屋帝国大学創設期のキャンパスプラン」 木方十根氏(名大助手 施設計画推進室)

第16回 6月7日(金)13時より(名大祭期間中)

「電子顕微鏡 HU-2 型をめぐる」 丸勢進氏(名大名誉教授)

第17回 6月21日(金)15時より

「渋澤元治の足跡」 高橋雄造氏(東京農工大教授)

回想：榊米一郎氏(名大名誉教授) 宮地巖氏(同)

受贈図書一覧(2001年8月～2002年1月)

| | | | | | |
|--------------------------|-----------------------------|-------|-------------------------|------------------|--------|
| 核融合科学研究所ニュース No.124 | 核融合科学研究所 | 8月7日 | 愛知県公文書館だより 第5号 | 愛知県公文書館 | 10月1日 |
| 福島大学要覧 平成9～12年度 | 福島大学 | 8月17日 | お茶の水女子大学資料目録 1 | お茶の水女子大学 | 10月2日 |
| 京都大学百年史 資料編3(年表 総索引) | 京都大学 | 8月23日 | 人文論集 第36巻第4号・第37巻第1号 | 神戸商科大学経済研究所 | 10月2日 |
| 創立100周年記念事業 四日市高等学校百年史 | 三重県立四日市高等学校創立100周年記念事業実行委員会 | 8月23日 | 南山大学五十年史 | 南山大学 | 10月2日 |
| 研究所報 第38・39号 | 大谷大学真宗総合研究所 | 8月23日 | 東海ヨット風土記 | 大橋郁夫氏 | 10月2日 |
| 三重大学一覧 | 三重大学 | 8月23日 | 鬼崎文庫資料目録 第2版 | 日本学術会議中部地区会議 | 10月2日 |
| 後藤新平記念館だより 第10号 | 水沢市立後藤新平記念館 | 8月23日 | 日本学術会議中部地区会議ニュース No.111 | 日本学術会議中部地区会議 | 10月3日 |
| 野間研だより No.6 | 財団法人野間教育研究所 | 8月30日 | 核融合科学研究所ニュース No.126 | 核融合科学研究所 | 10月10日 |
| 立命館大学国際平和ミュージアムだより | 立命館大学国際平和ミュージアム | 9月3日 | 校史 Vol.13 | 國學院大學 | 10月10日 |
| Vol.9-1(通巻第23号) | 立命館大学国際平和ミュージアム | 9月3日 | 記念館だより 第25号 | 旧制高等学校記念館 | 10月12日 |
| 神奈川県立公文書館紀要 第3号 | 神奈川県立公文書館管理企画課 | 9月3日 | 大学資料集2000 | 青山学院大学 | 10月19日 |
| 平成12年度神奈川県立公文書館年報 | 神奈川県立公文書館管理企画課 | 9月3日 | 関西学院事典 | 関西学院 | 10月19日 |
| 核融合科学研究所ニュース No.125 | 核融合科学研究所 | 9月12日 | 新修名古屋市史 第十巻 年表・索引 | 名古屋市市政資料館 | 10月19日 |
| 東京大学史史料室ニュース 第26号 | 東京大学史史料室 | 9月14日 | 同 CD-ROM 版 | 名古屋市市政資料館 | 10月19日 |
| 四日市大学論集 第14巻第1号 | 四日市大学学会経済学部部会 | 9月14日 | 琉球大学五十年史 | 琉球大学 | 10月19日 |
| 中央大学百年史 通史編上巻 | 中央大学 | 9月18日 | 琉球大学五十年史写真集 | 琉球大学 | 10月19日 |
| 大阪市立大学 学生寮の歴史 | 大阪市立大学 | 9月18日 | 東京大学史紀要第一九号 | 東京大学大学史史料室 | 10月25日 |
| 文書館用語集 | 大阪大学出版会 | 9月20日 | サティア《あるがまま》第44号 | 東洋大学井上円了記念学術センター | 10月25日 |
| DJI パイマンスリーレポート No.36～40 | 小川千代子氏 | 9月20日 | 神奈川大学短期大学部の50年 | 神奈川大学短期大学部 | 10月25日 |
| 可児市史料目録 第1集「今泉家文書目録」 | 可児市教育委員会 | 9月20日 | 神奈川大学を築いた人々 | 神奈川大学 | 10月25日 |
| 第2集「野口家文書目録」 | | | 名古屋市立大学50年の歩み | 名古屋市立大学 | 10月30日 |
| 第3集「野口家文書目録」 | | | 大谷大学真宗総合研究所 研究紀要第18号 | | |
| 第4集「柿下文書目録」 | | | 1999(平成11)年度研究報告 | 大谷大学真宗総合研究所 | 10月30日 |
| 拓殖大学創立100周年記念出版 | 拓殖大学創立百年史編纂室 | 9月27日 | 東北大学史料館だより No.2 東北大学史料館 | 東北大学史料館 | 10月30日 |
| 満川龜太郎-地域・地球事情の啓蒙者(上・下) | 拓殖大学創立百年史編纂室 | 9月27日 | 新修 名古屋市史だより 第20号 | 名古屋市市政資料館 | 10月30日 |
| サティア《あるがまま》第43号 | 東洋大学井上円了記念学術センター | 9月27日 | 学習院大学五十年史ニュース 第6号(最終号) | 学習院大学大学五十年史編纂室 | 11月1日 |
| 伊藤圭介日記 第八集 | 伊藤圭介日記(文久二年三月～八月) | 9月27日 | 史料室だより 第7号 | 恵泉女学園史料室 | 11月1日 |
| 伊藤圭介日記(文久二年三月～八月) | 名古屋市長山植物園 | 9月27日 | 学習院大学50年史 下巻 | 学習院大学 | 11月5日 |
| | | | 山梨医科大学年報(平成11年度) | 山梨医科大学 | 11月5日 |
| | | | 拓殖大学百年史研究 8号 | 拓殖大学 | 11月16日 |
| | | | 関西大学115年のあゆみ | 関西大学 | 11月19日 |
| | | | 核融合科学研究所ニュース No.127 | 核融合科学研究所 | 11月22日 |

| | | | |
|---------------------------------------|--------|------------------------------|----------------|
| 一〇年の学譜 大学史紀要 第六号 | | 水沢市立後藤新平記念館 | 1月11日 |
| 明治大学総務部歴史編纂事務局 | 11月26日 | 立命館大学国際平和ミュージアムだより | |
| 東北大学百年史編纂室ニュース 第8号 | | Vol 9- 2 (通巻第24号) | |
| 東北大学百年史編纂室 | 11月29日 | 立命館大学国際平和ミュージアム | 1月11日 |
| 佛教大学報 第51号 | | 岩手県立大学社会福祉学部紀要 第4巻1号 | |
| BUKKYO UNIVERSITY Head Line News 2001 | | 2001年9月 | 岩手県立大学 1月15日 |
| ~ 佛教大学ホームページ「トピックス」より ~ | | 中央大学百年史編集ニュース 第三十五号 | |
| (佛教大学報第51号付録) | 佛教大学 | 中央大学大学史編集課 | 1月17日 |
| 創価大学創立30周年記念写真史 | | 独立行政法人文化財研究所要覧 | |
| 創価教育研究センター | 12月12日 | 独立行政法人文化財研究所 | 1月17日 |
| 核融合科学研究所ニュース No.128 | | 学祖 荒木俊馬先生と京都産業大学 - 建学の心をたずねて | 京都産業大学 1月24日 |
| 核融合科学研究所 | 12月14日 | 日本女子大学学園事典 - 創立100年の奇跡 | |
| 金沢大学資料館だより 第18号 | | 年表・日本女子大学の100年 | 日本女子大学 1月24日 |
| 金沢大学資料館 | 12月14日 | 京都工芸繊維大学百年史 付録 CD-ROM | |
| 球想ニュース 第1・2号 | | 「開学100年の轍」 | 京都工芸繊維大学 1月24日 |
| 名古屋大学野球部先輩会 | 12月20日 | 大学史資料室ニュース 第6号 | |
| 新聞報道にみる岐阜経済大学-G.K.U. News File- | | 大阪市立大学大学史資料室 | 1月29日 |
| 岐阜経済大学 | 12月21日 | サティア《あるがまま》第45号 | |
| 大谷大学百年史 < 通史編 > < 資料編 > | | 東洋大学井上円了記念学術センター | 1月29日 |
| 大谷大学真宗総合研究所 | 12月21日 | 人文論集 第37巻第2号 | |
| 野間研だより No.7 財団法人野間教育研究所 | 1月4日 | 神戸商科大学経済研究所 | 1月29日 |
| 京都大学 大学文書館だより | | 秩父宮賜杯 第33回全日本大学駅伝対校選手権大会 | |
| 京都大学大学文書館 | 1月4日 | 蛭薙観順氏 | 1月29日 |
| 後藤新平記念館だより 第11号 | | | |

資料室日誌 (抄)

| | | | |
|--------|---|--------|---|
| 8月 7日 | 総務課より、名古屋大学開学記念日の由来につき照会。 | 9月 14日 | 名古屋大学大学史資料室運営委員会(第4回)開催。 |
| 8月 27日 | 山崎一雄名大名誉教授より資料受贈。 | | 愛知学院大学教員より、自己点検および授業評価資料につき照会。 |
| 8月 28日 | 名大医学部大幸地区事務員、資料寄贈のため来室。 | 9月 18日 | 名大保体センター教員、資料寄贈のため来室。 |
| | 名大総務部研究協力課事務員、名大附属図書館事務員、資料貸出しのため来室。 | 9月 19日 | 名古屋市教育委員会より、汪兆銘につき照会。 |
| 8月 31日 | 将来構想専門委員会(第2回)開催。 | 9月 20日 | 第1回名古屋大学大学史資料室公開シンポジウム『開かれた大学』とこれからの文書管理・情報公開』開催。 |
| | 嘉藤良次郎名大名誉教授、資料寄贈のため来室。 | 9月 26日 | 広島大学教員より、名古屋大学開学記念日につき照会。 |
| 9月 3日 | 資料収集専門委員会(第3回)開催。 | 9月 27日 | 愛知医科大学事務員より、資料受贈時の手続きにつき照会。 |
| | 金沢大学教員より、資料収集基準につき照会。 | 10月 2日 | 名大医学部教員より、資料受贈。 |
| 9月 7日 | 名大生協職員、名大アルバム改訂のため来室。 | 10月 3日 | 神谷・山口室員、横浜出張(全国大学史資料協議会総会・研究会参加、5日まで神奈川大学)。 |
| 9月 10日 | 『名古屋大学大学史資料室ニュース』第11号、『名古屋大学大学史資料室』概要パンフレット・リーフレット、『名大史ブックレット』1~3第2刷刊行。 | | 名大医学部事務員より、昭和29年度卒業式答 |
| 9月 12日 | 嘉藤良次郎名大名誉教授、資料寄贈のため来室。 | | |

- 辞につき照会。
立命館大学事務員より、当大学史資料室の行う授業につき照会。
- 10月 10日 名大総務部企画広報室事務員より、学制布告につき照会。
- 10月 15日 全学共通科目（総合科目）「日本の大学 - 近代日本と名古屋大学 - 」授業開始。
名大総務部総務課事務員より、名大豊田講堂およびシンポジオンの竣工日等につき照会。
- 10月 17日 将来構想専門委員会(第3回)開催。
- 10月 22日 神谷室員、名大総務部総務課事務員とともに埼玉県深谷市出張（故渋澤元治名大初代総長関係資料受贈のため、渋澤元治記念館）。
- 10月 24日 ペルーの大学学生より、専門誌に論文を執筆掲載した名大教員につき照会。
- 10月 25日 愛知医科大学事務員より、資料購入につき照会。
- 10月 27日 サウジアラビアより、名大教員執筆の医学学会誌記事につき照会。
- 11月 5日 名古屋大学大学史資料室運営委員会(第5回)開催。
- 11月 6日 名大総務部学務課事務員より、名古屋高等商業学校につき照会。
- 11月 7日 名大文学部学生、元文学部教員につき照会。
- 11月 13日 元名大山岳部員、昭和30～40年の名大沿革につき照会。
- 11月 15日 名大医学部大幸地区事務員、資料寄贈のため来室。
- 11月 20日 名古屋大学大学史資料室協議委員会(第2回)開催。
- 11月 26日 名大文学部卒業生鈴木光保氏より、資料受贈。ソウル大学アーカイヴズ室員、当大学史資料室調査見学のため来室。
- 11月 27日 東京大学大学院生より、戦後占領時の名大資料につき照会。
- 11月 29日 愛知県立大学教員より、昭和40年代の名大資料につき照会。
- 12月 5日 中日新聞記者より、医学部沿革につき照会。
- 12月 11日 岸本公蔵氏より、故岸本謙一名大環医研教授関係資料受贈。
- 12月 12日 創価教育研究センター員、文書資料管理の調査見学のため来室。
- 12月 14日 名大文学部学生より、第八高等学校資料につき照会。
- 12月 18日 名古屋大学大学史資料室協議委員会(第3回)開催。
名大総務部総務課事務員より、名大大学院の初期の入学者数につき照会。
- 12月 19日 愛知医科大学事務員より、帝国大学および国立大学職員数につき照会。
- 12月 28日 『名大史ブックレット4 豊田講堂と古川図書館 - 名古屋大学の寄付建物 - 』刊行。
神戸大学教員より、大学史関係書籍の一般頒布につき照会。
- 1月 5日 宮地巖名大名誉教授より、資料受贈。
- 1月 8日 中日新聞記者、取材のため来室。
- 1月 10日 神谷室員、東京出張（史料情報共有化システム公開研究会参加、国立史料館）。
中日新聞に名大博物館特別展（大学史資料室共催）名帝大けふ誕生 - 初代総長渋澤元治とその時代」に関する記事掲載。
- 1月 11日 日本経済新聞記者より、豊田講堂寄附の経緯につき照会。
学外者より、過去の名大合格者数につき照会。
- 1月 16日 名大施設部施設計画推進室員より、名大の現存する遺構につき照会。
- 1月 21日 宮内庁書陵部研究員より、渋澤元治資料および日本近代資料につき照会。
- 1月 22日 名古屋大学大学史資料室協議委員会(第4回)開催。
- 1月 24日 鈴木道子氏より、故能代清名大理学部教授関係資料受贈。
浅野龍雄氏より、資料受贈。

名古屋大学大学史資料室
室長 加藤 鈺治（教授・併任）
専任室員 神谷 智（助手）
山口 拓史（助手）
事務員 増田 よしみ

名古屋大学大学史資料室ニュース 第12号
Nagoya University Archives News No. 12

発行日 2002年3月25日（年2回刊）
編集発行 名古屋大学大学史資料室
名古屋市中種区不老町〒464-8601
電話 (052)789-2046
E-mail: nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp

印刷 株式会社荒川印刷
名古屋市中区千代田 2-16-38